

「おはようございます」

四月に入社したばかりの新人社員、小沢が元気よく営業部のドアを開けて入って来た。「おはようございます」と、既に来ていた女子職員の声が返ってきた。小沢は席に着いてから、おもむろに課長の席を見て驚いた。いつもはこの時間には入社していないはずの課長が既に席にいるではないか。小沢はあわてて課長の席に近づき、

「課長、おはようございます」と挨拶をした。すると、

「ああ、おはよう」と低い声で呟くように答えが返ってきた。

始業時間が近づき、社員たちがそれぞれ、「おはようございます」と挨拶しながら集まって来る。やがて仕事が始まった。これから、朝の朝礼が始まるころだ。今日は小沢が司会をするようになっていた。

「おはようございます。時間になりましたので、朝礼を始めます」

「まず最初に、昨日の営業報告を足立さんからしてもらいます。足立さんお願いします」  
「おはようございます。私は昨日、得意先の小原電化に、ユーザーサービスのために当社が企画開発をしていましたイタリア製ボールペンセットの購入契約を取り付けることができました。その他には、特別に訪問するアポはとっていませんでしたが、大森にあります朝日堂に飛び込み訪問をしましたところ、今週末に企画部の課長さんと直接お会いする約束をいただきました。訪問する際には、当社の製品説明を十分にしていきたいと思います」と思っております」

足立の報告が終わり、その後、同僚三人の営業報告が続いた。

「では最後に、浅田課長から一言お願いいたします」

「皆さん、おはようございます。どうか今日一日も元気に仕事に励んでください。また、このような晴れわたった日には誰もが外に出がちになりますから、得意先回りには、効率のよいスケジュールを組んでおられるようにお願いします」

浅田課長の話が終わって、毎日行われている朝礼も終わりだ。

「これで朝礼を終わります。今日も一日がんばりましょう」

朝礼が済んで、各自の席に戻り、仕事に取りかかる。準備のできた営業マンが、

「では、営業に行ってきます」と重そうなカバンを下げて出かけていく。

「いつてらっしゃい。がんばってください」と女子職員が送り出す。

「大沢先輩、今日は一緒に帰らせてもらいますので、よろしくお願いします」

と小沢が大沢先輩に声をかけると、

「小沢、今日は昨日の朝礼の時に話した目標達成までがんばるから、覚悟しておけよ。そろそろ一人前の営業マンとしてひとりで仕事ができるようにならなくちゃな」と厳しい一言が返ってきた。

「はい、がんばります！」と小沢は威勢のいい声で答えた。

「では行ってきます」

「いつてらっしゃい。小沢君がんばってね」

二人は女子職員に送り出されて会社を後にした。